

平成 21 年度開園前イベントプログラム試行実施報告

1 . 平成 21 年度開園前イベントプログラムの概要	1
(1) 目的	1
(2) 実施日時	1
(3) 内容	2
2 . 当日の様子	4
3 . アンケート調査の実施結果	5
4 . 試行イベントのまとめ	10
(1) イベント全体の反省点	10
(2) 開園前イベントプログラムとしての成果と課題	11

1. 平成 21 年度開園前イベントプログラムの概要

キトラ古墳周辺地区では、平成 20 年度より開園前までの地区内の景観維持、公園整備事業の周知、地域との連携を目的とした開園前イベントプログラムを企画し、地域の活動団体と連携しながら、開園前イベントプログラムを試行している。

(1) 目的

地域との連携

地域の住民や活動グループとともに開園前イベントプログラムを試行することで、地域との協力体制をつくるとともに、本格運営にむけてのポイントや課題を抽出し、今後の計画に反映する。

開園前の事業周知

キトラ古墳周辺地区の事業計画や地区で行う体験的歴史学習について来訪者に情報発信を行う。また、地域と連携したイベントプログラム(農林業・景観保全、食品加工、古代の歴史・文化の体験の3分野)をプレ体験していただき、体験的歴史学習へのニーズ等を明らかにする。

開園後のイベントプログラムのメニュー検討

各分野における「体験」の提供とその後のアンケート調査により、イベントプログラムへのニーズを把握し、今後のメニューを検討する参考とする。

開園前の景観維持

イベント会場として地区内を活用することで、草刈りや花卉植栽による開園前の景観維持に努める。また、実際に地区内でプレイベントを行うことで、イベントプログラムを実施する上での景観、動線、施設のあり方等に関する課題や問題点を抽出し、今後の計画に反映する。

(2) 実施日時

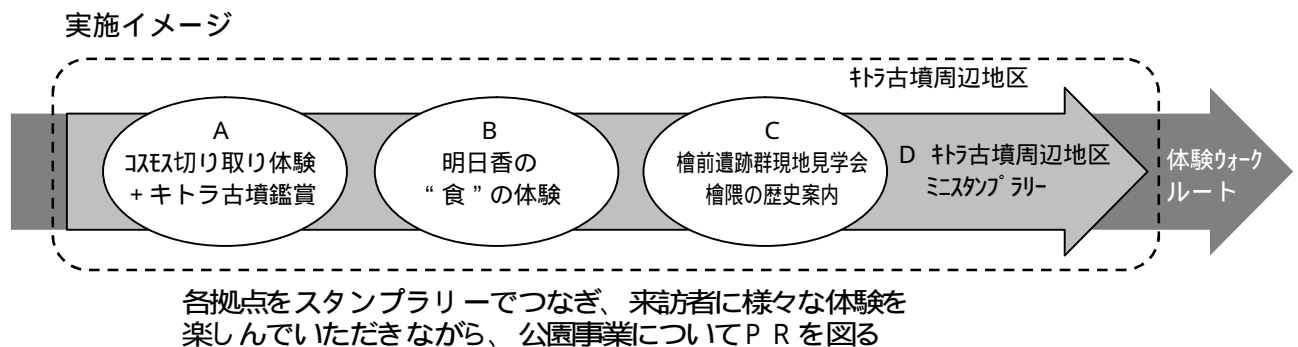
平成 21 年 11 月 3 日(火・祝) 9:30~16:00

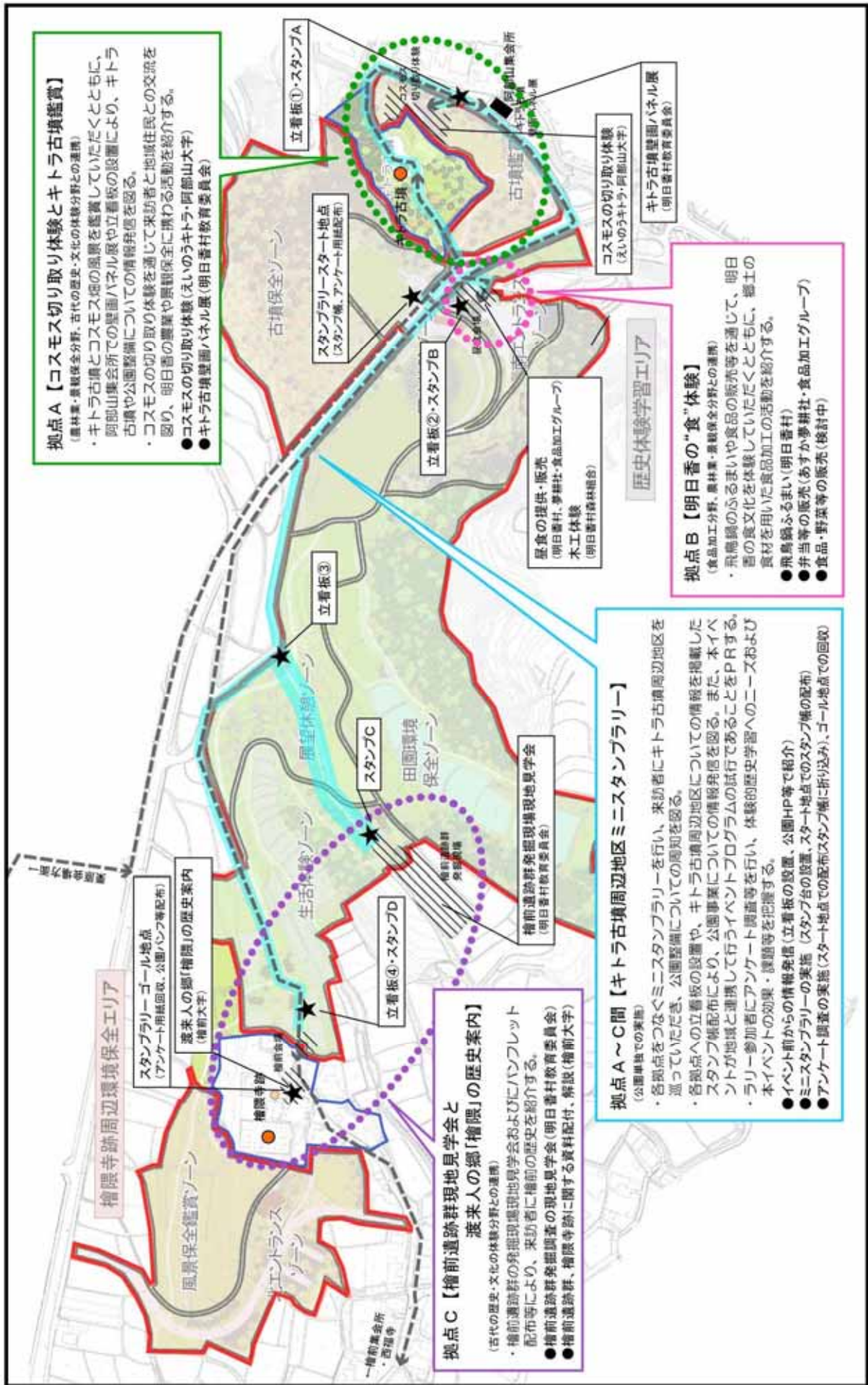
(3) 内容

明日香村のイベント「明日香まるごと体験ウォーク」の一会場として、現在整備中であるキトラ古墳周辺地区において、地域の住民や活動グループ、関係機関等と連携しながら飛鳥来訪者への情報発信やサービス提供を行った。

- A コスモスの切り取り体験 + キトラ古墳鑑賞（壁画パネル展）
（連携先：えいのうキトラ、阿部山大字、明日香村教育委員会）
- B 明日香の“食”体験 + 木工体験
（連携先：明日香村、明日香村内の食品加工グループ、明日香村森林組合）
- C 檜前遺跡群現地見学会、渡来人の郷「檜隈」の歴史案内
（連携先：明日香村教育委員会、檜前大字）
- D ミニスタンプラリーによるキトラ古墳周辺地区の情報発信
（公園単独による実施）

（A～D全ての企画について、明日香村地域づくり課との協議・連携必要）





拠点A【コスモス切り取り体験とキトラ古墳鑑賞】

- (農林業・畜産保全分野、古代の歴史・文化の体験分野との連携)
- ・キトラ古墳とコスモス畑の風景を鑑賞していただくとともに、阿部山集会所での壁面パネル展や立看板の設置により、キトラ古墳や公園整備についての情報発信を図る。
- ・コスモスの切り取り体験を通じて来訪者と地域住民との交流を図り、明日香の農業や景観保全に携わる活動を紹介します。
- コスモスの切り取り体験(えいのうキトラ・阿部山大字)
- キトラ古墳壁面パネル展(明日香村教育委員会)

拠点B【明日香の“食”体験】

- (食品加工分野、農林業・畜産保全分野との連携)
- ・飛鳥崎のふるまいるまいや食品の販売等を通じて、明日香の食文化を体験していただくとともに、郷土の食材を用いた食品加工の活動を紹介します。
- 飛鳥崎ふるまいるまい(明日香村)
- 弁当等の販売(あすか夢耕社・食品加工グループ)
- 食品・野菜等の販売(検討中)

拠点C【榑前遺跡群現地見学会と 渡来人の郷「榑隈」の歴史案内】

- (古代の歴史・文化の体験分野との連携)
- ・榑前遺跡群の発掘現場現地見学会およびパンフレット配布等により、来訪者に榑前の歴史を紹介する。
- 榑前遺跡群発掘調査の現地見学会(明日香村教育委員会)
- 榑前遺跡群、榑隈寺跡に関する資料配付、解説(榑前大字)

拠点A～C間【キトラ古墳周辺地区ミニスタンプラリー】

- (公園単独での実施)
- ・各拠点をつなぐミニスタンプラリーを行い、来訪者にキトラ古墳周辺地区を巡っていただき、公園整備についての周知を図る。
- ・各拠点への立看板の設置や、キトラ古墳周辺地区についての情報を掲載したスタンプ帳配布により、公園事業についての情報発信を図る。また、本イベントが地域と連携して行うイベントプログラムの試行であることをPRする。
- ・ラリー参加者にアンケート調査等を行い、体験的歴史学習へのニーズおよび本イベントの効果・課題等を把握する。
- イベント前からの情報発信(立看板の設置、公園HP等で紹介)
- ミニスタンプラリーの実施(スタンプ台の設置、スタート地点でのスタンプ帳の配布)
- アンケート調査の実施(スタート地点での配布スタンプ帳に折り込み)、ゴール地点での回収

2. 当日の様子

- ・天気は曇り模様ながら盛況（駅前体験ウォーク受付数：約1300人）
- ・8:30より現地にてセッティング、9時頃より参加者が来訪しはじめたため、ミニスタンプラリー開始（当初は9時半開始予定）
- ・参加者多数のためアンケートは昼前にはスタンプ帳の配布終了（500枚）
- ・キトラ古墳周辺地区内の参加者滞在は11時～12時頃にピークを迎えた。
- ・各会場とも盛況で、特に昼食会場や木工体験会場は列ができた。
- ・14時には来訪者が途絶えはじめ、14時半に撤収作業開始、15時には終了した。



キトラ古墳についての解説・案内



コスモス摘み取り体験の様子



明日香の“食”の体験の様子



ミニスタンプラリーの様子



檜前遺跡群現地見学会の様子



檜前大字スタッフによる「檜隈」の歴史案内

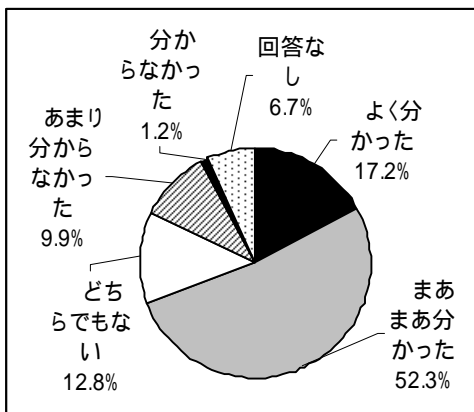
3. アンケート調査の実施結果

ミニスタンプラリー参加者を対象にアンケート調査を行った。以下に調査結果を整理する。

ミニスタンプラリーの効果・満足度

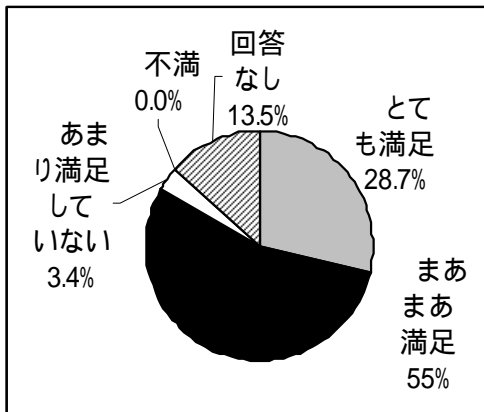
- 参加者の約7割がミニスタンプラリーに参加したことでキトラ古墳周辺地区への理解が深まったと回答した。
- 参加者の約8割が満足と回答した。(とても満足29%、まあまあ満足55%)

キトラ古墳周辺地区への理解度



(選択回答)

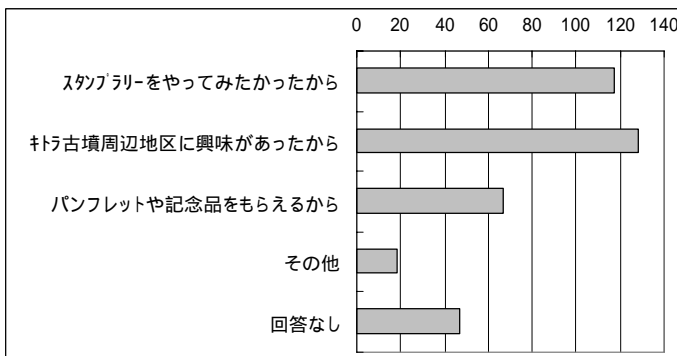
ミニスタンプラリーの満足度



(選択回答)

ミニスタンプラリーの参加理由

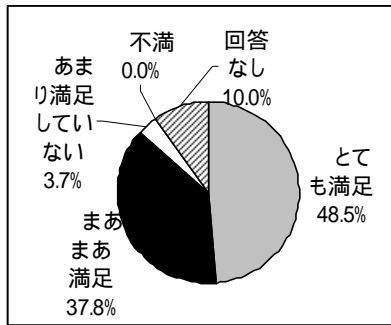
- 「キトラ古墳周辺地区について興味があったから」と「ミニスタンプラリーをやってみたかったから」が多く、参加者がキトラ古墳周辺地区に興味を持っていることが分かった。



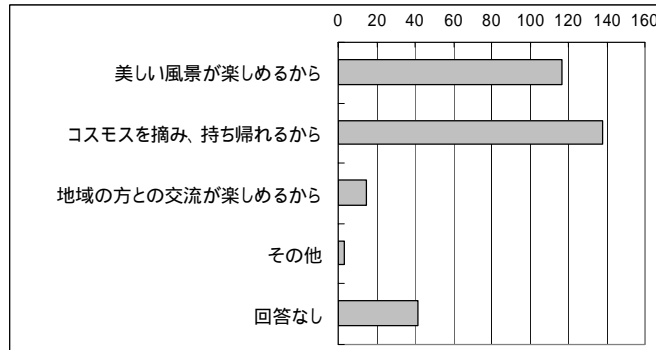
(選択回答)

コスモスの摘み取り体験の満足度・参加理由

- 8割以上が満足と回答し、特に「とても満足」との回答が5割を占めるなど、満足度が高い結果となっている
- 参加理由として、「コスモスが持ち帰れる」とともに「美しい風景が楽しめる」が多く、風景を楽しむことへのニーズが高いことが分かった。



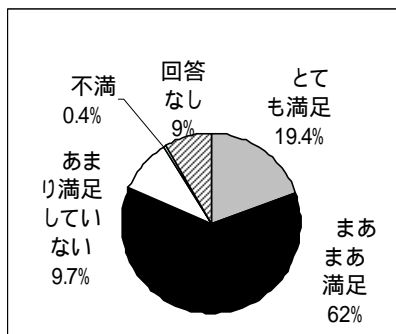
(選択回答)



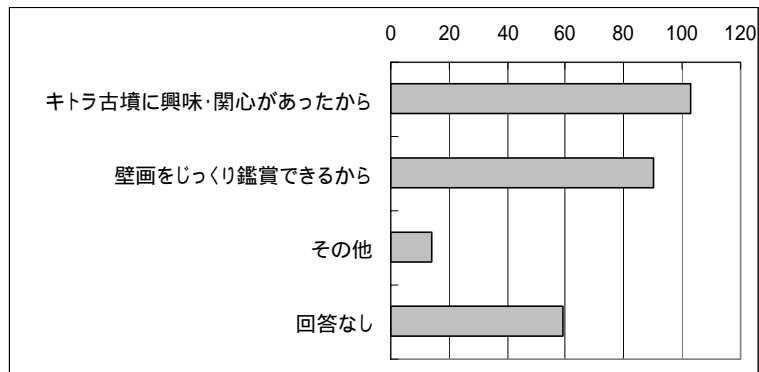
(選択回答)

キトラ古墳壁画パネル展の満足度・参加理由

- ・参加者の約8割が満足と回答した。(とても満足19%、まあまあ満足62%)
- ・パネル展示のみであるが多くの人が参加しており、キトラ古墳壁画への関心が高いことが明らかになった反面、解説員やVTR等の設置への要望があった。



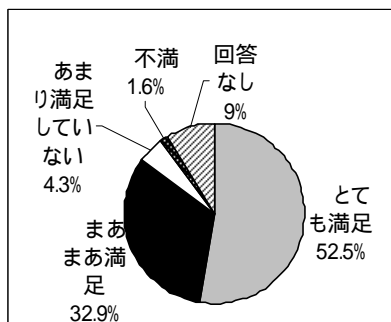
(選択回答)



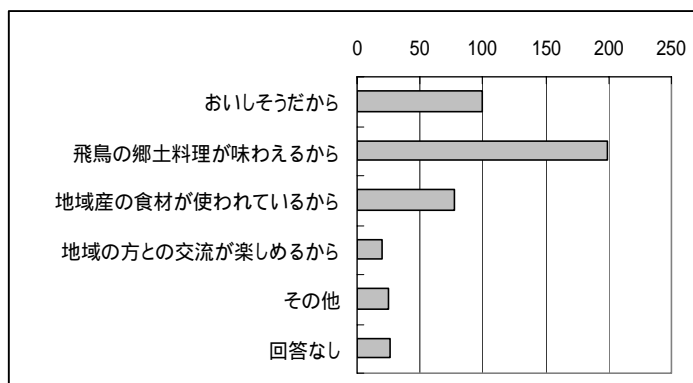
(選択回答)

昼食会場の満足度・参加理由

- ・8割以上が満足と回答し、特に「とても満足」との回答が5割を占めた。
- ・参加者の満足度は高い反面、会場が狭いこと、座れないこと、人が多すぎて並べなかったり、売り切れ等で食べられなかったことによる不満もあった。
- ・参加理由として、「飛鳥の郷土料理が味わえるから」が最も多く、次いで「おいしそうだから」「地域産の食材が使われているから」が多かった。



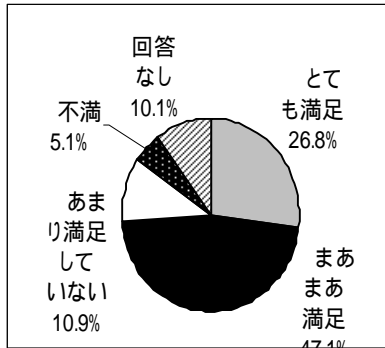
(選択回答)



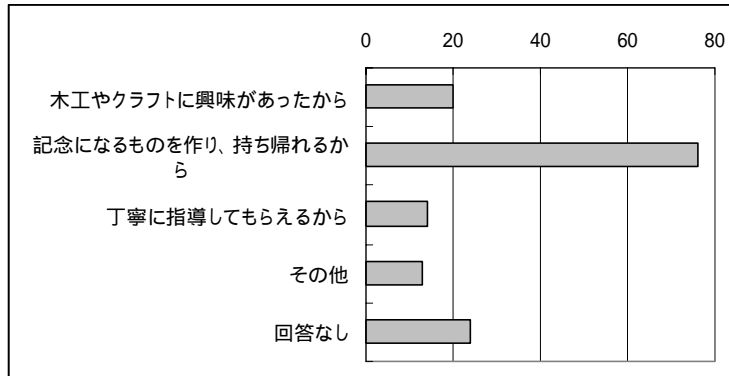
(選択回答)

木工体験の満足度・参加理由

- ・参加者の約8割が満足と回答した。(とても満足19%、まあまあ満足62%)
- ・反面、関心が高過ぎ長蛇の列ができるなど今後の課題も伺えた。



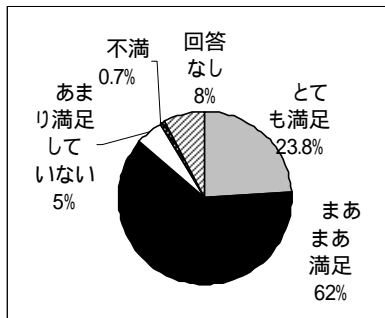
(選択回答)



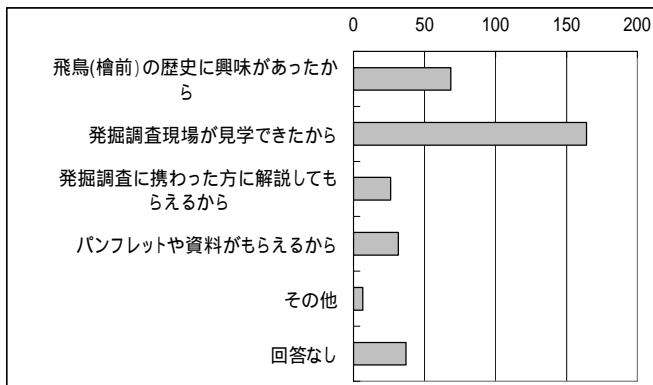
(選択回答)

檜前遺跡群現地見学会の満足度・参加理由

- ・参加者の約9割が満足と回答した。(とても満足24%、まあまあ満足62%)
- ・参加理由として「発掘調査現場が見学できたから」が最も多く、次いで「檜前の歴史に興味があるから」が多かった。



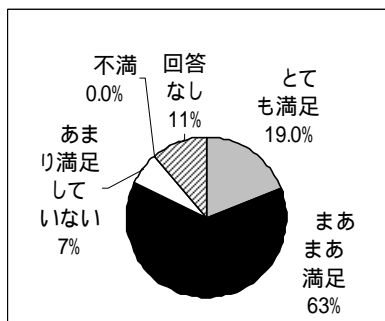
(選択回答)



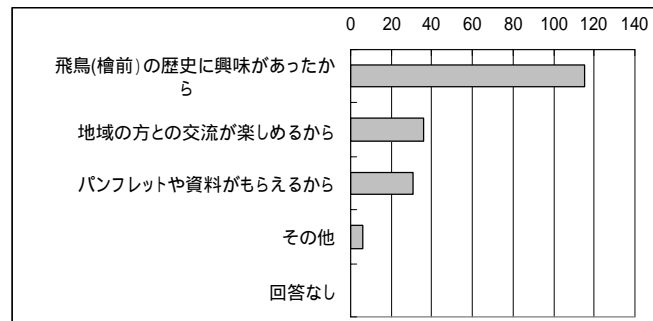
(選択回答)

渡来人の郷「檜隈」の歴史案内の満足度・参加理由

- ・参加者の約8割が満足と回答した。(とても満足19%、まあまあ満足63%)
- ・参加理由として「檜前の歴史に興味があるから」が最も多かった。また、「地域との交流」を理由にしている参加者も一定数あった。



(選択回答)

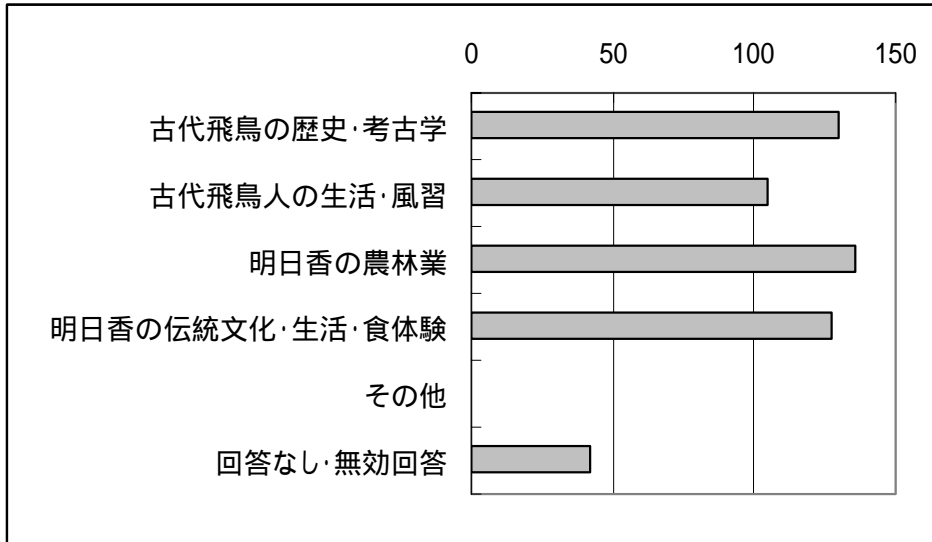


(選択回答)

参加してみたいイベントプログラムの分野

- ・「明日香の農林業」、「古代飛鳥の歴史・考古学」、「明日香の伝統文化・生活・食体験」が多く、次いで「古代飛鳥人の生活・風習」が多かった。

参加してみたいイベントプログラムの分野

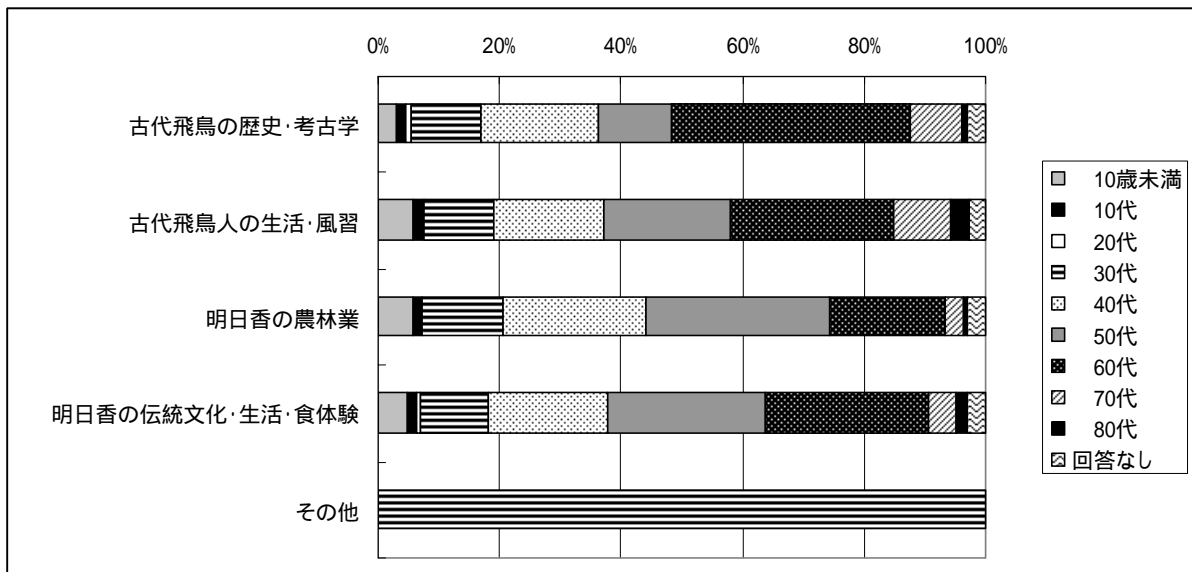


(2つまで複数回答可)

年齢別にみると...

- ・10代および30~50代は「明日香の農林業」や「明日香の伝統文化・生活・食体験」へのニーズが高かった。
- ・60代以降は「古代飛鳥の歴史・考古学」、「古代飛鳥人の生活・風習」へのニーズが高かった。

年齢別にみた参加してみたいイベントプログラムの分野

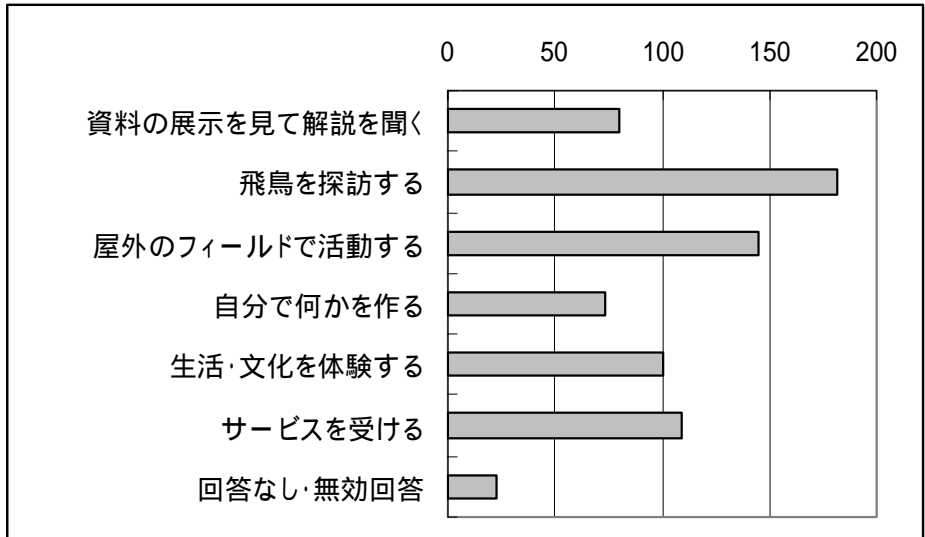


(2つまで複数回答可)

参加してみたいイベントプログラムの手法

- ・「飛鳥を探訪する」が最も多く、次いで「屋外のフィールドで活動する」「サービスを受ける」「生活・文化を体験する」が多かった。
- ・「資料の展示を見て解説を聞く」「自分で何かを作る」は比較的少なかった。

参加してみたいイベントプログラムの手法

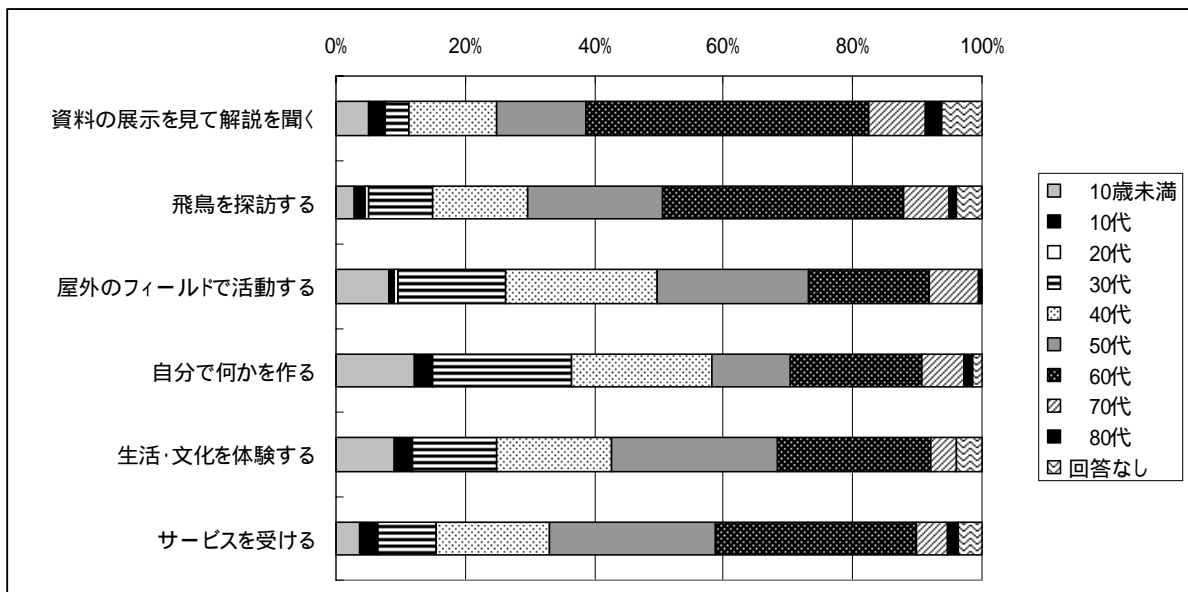


(3つまで複数回答可)

年齢別にみると...

- ・10代は「自分で何かを作る」「生活・文化を体験する」「屋外のフィールドで活動する」へのニーズが高かった。
- ・30～50代は「屋外のフィールドで活動する」「生活・文化を体験する」「サービスを受ける」ことへのニーズが高かった。
- ・60代以降は「資料の展示を見て解説を聞く」「飛鳥を探訪する」ことへのニーズが高かった。

年齢別にみた参加してみたいイベントプログラムの手法



(3つまで複数回答可)

4．試行イベントのまとめ

今回の明日香まるごと体験ウォークと連携した開園前イベントプログラムの反省点や課題を以下に整理する。

(1) イベント全体の反省点

村との連絡調整の不足

体験ウォークと開園前イベントプログラムの連携について、村全体でスタンプラリーをできないか等の提案が村からあったが、準備時間の不足等により実現しなかった。今後はもっと早い時期から村と連絡調整を行い、相互の情報・意見交換に努める必要がある。

地区（大字）との連絡調整の不足

今回初めて連携した檜前地区とは連絡調整が遅れたため、実施内容や役割分担について直前まで不明な点が多く、また、当日のセッティングにも変更が生じるなど、イベントの運営上支障があった。一方、阿部山地区との連携は3回目であり、地区もイベントの実施に慣れているため、準備や当日の運営はスムーズに運んだ。

今後は地区ごとの成熟度合いに応じた頻度で連絡調整を行い、特にイベントに慣れていない地区や団体に対しては十分なバックアップを行う必要がある。

参加者数に対する会場のキャパシティ不足

多数の参加者に対応できるだけの会場スペースやアメニティ、サービスの準備ができていなかった。キトラ古墳周辺地区内では、特に昼食会場の狭さや食料の不足、トイレの不足が問題となった。今回は参加申し込み不要なイベントであったため、参加者数の予想が立てにくかったが、特に昼食会場の面積的なキャパシティなどは、公園地区内をもっと広域に利用してもらうかたちで解消できる部分もあったため、今後は十分な対策を講じる必要がある。

誘導・案内の不備

地区内のルートをもっと正しく誘導できていない箇所がいくつかあり、参加者の混乱を招いていた（栗原会場～阿部山会場間の体験ウォークルート、檜隈寺跡現地見学会へのルートなど）。誘導に十分な人員を配置できていなかったこと（各会場には十分に人員が配置されていたが、ルート誘導にあたる人員が不足していた）、誘導案内の看板等を増やす必要があったことなどが反省点として挙げられる。

参加者到着時間の読み違い

事前の想定では、参加者のキトラ古墳周辺地区到着時間はお昼を挟んだ11時～14時と想定していたが、実際には10時～12時がピークとなったため、スタンプ台のセッティングが参加者の到着に間に合わなかった地点があった。これは、参加者が受付開始時間より早くに集まり、イベントスタート時刻が早まったこと、各会場の体験や販売が先着順であることから参加者が先を急いだこと、気温が低く天候が悪かったため、参加者が足早になったこと、などが原因と考えられる。体験ウォークの目的が、来訪者に飛鳥を巡ってゆったりと農体験を楽しむ

んでいただけることにあるならば、今後は各会場での体験の時間設定や休憩場所の設置などを工夫し、滞在時間の延長を図ることが求められる。

(2) 開園前イベントプログラムとしての成果と課題

開園前イベントプログラムの目的として設定した四項目： 公園事業への地域参画（地域活性化） 開園前の事業周知、 開園後のイベントプログラムのメニュー検討、 開園前の景観維持について、それぞれの目的が達成できたか、どのような課題があるかを以下に述べる。

公園事業への地域参画（地域活性化）

阿部山大字以外との連携実現、今後の意見交換が重要

(1)でも述べたように、村や檜前大字との連絡調整で不足する面もあったが、阿部山地区以外の団体・大字との連携が初めて実現した点は評価すべきである。また、事前の準備を通して、各者のニーズや課題が見えてきたところであるが、今後の各者との意見交換（懇談会の開催）により、これらを明確にしたうえで、これから公園と地域が連携してどんなことができるかを共に考えていくことが重要である。

開園前の事業周知

周知に一定の効果あり、ターゲット別の周知手法を検討すべき

アンケート調査結果から、奈良県・大阪府下でもまだまだ周知が不十分である状況下（約半数の参加者が地区の整備について知らないと回答）で、参加者の約7割がスタンプラリーを通じて地区への理解が深まったと回答していることから、一定のPR効果はあったと言える。

また、イベント実施中には立看板の前で足を留めている参加者の姿が多く見られ、スタンプラリーによって地区内を巡りながら各所で解説を見たり聞いたりすることで、単にチラシを配布するよりは効果があったと考えられる反面、アンケートでは「もっと説明がよく分かるように」「個所個所に説明があればベスト」等の意見があり、参加者にもっと公園整備後のイメージを分かりやすく伝えるための工夫が必要であった。

なお、アンケート結果より、あらかじめ地区についての予備知識がある回答者のほうが、スタンプラリーによる理解が深まったと感じていることから、今後は地区の整備について予備知識のあるターゲットとないターゲットへの周知の内容や手法を分けることも検討すべきである。

開園後のイベントプログラムのメニュー検討

メニュー検討の参考となるデータ取得、今後は実施主体・体制の検討必要

アンケート結果より、イベントプログラムの内容や手法は、年代別に傾向があることが明らかになった。（若年～中年層は明日香の農林業や伝統文化・生活・食などについての屋外活動や体験、サービス提供を求め、中高年層（60代以上）は古代飛鳥の歴史や文化についての展示・解説やツアーなどを求めている。

こうしたデータは今後メニューを検討していく上で参考となるものではあるが、一方で誰が主体となって、どのような体制で参加者の指導やサービス提供にあたるのかについては、まだ検討されておらず、今後開催する懇談会で議論していくとともに、試行イベントを重ねながら

検証して必要がある。

開園前の景観維持

古墳前は成果あり、今後はフィールドの景観維持につながる活用方策を検討すべき
キトラ古墳前の谷部は、今年も阿部山大字によるコスモスの植栽が行われ、景観維持につながったと言える。一方、体験学習広場や里地里山フィールドは今回のイベントに活用されず、特に修景等も行われなかった。特に里地里山体験フィールドは荒廃が進んでおり、早急に景観維持につながる活用方策を検討する必要がある。

また、アンケートでは犬の糞やゴミに関する苦情も出ており、対策が必要である。